



## 「突っ張れ剛」 (上)

### 褒めて育てる指導

東北公益文科大(酒田市)で「時事問題特講」のタイトルの下、荘内日報記者として講義する機会があった。この連載のエッセンスを話したが、ハタチを1歳超えたぐらいの学生たちにとって存命だったら82歳の柏戸は「祖父世代」。存在自体を知っている学生はそう多くなかった。一方、今も販売されている漬物「しなべきつり」が減反政策への対応として生まれ、引退後の柏戸が販売に応援していたエピソードを紹介すると「故郷に手助けした。まさしく公益的行動だ」と感心してレポートに書いてくれた



た。「地域のため、地元のため、自分はどう生きるか」を目標に模索している学生たちの参考になったようだ。うれしい反応だった。

柏戸が番付を上げに上げ

ていた当時の得意技は立ち合い直後からの突っ張り、ノド輪攻めだ。ライバル大鵬相手にもこれが利いた。弓なりになって残そうする相手を構わず仰向けに倒す豪快な突き押し相撲。すごい破壊力だ。この得意技ができあがった背景には師匠・伊勢ノ海親方の「褒めて育てる指導法」があった。

### お前は強いと暗示

入門6年後に大関として

初優勝を果たした昭和35(1960)年初場所後、親方は大きな役割を果たした安ど感もあって、その相撲指導を改めて振り返った。「私は柏戸に『お前は強いんだ』と暗示を与えた。相撲はうまくならなくてもいい。強くさえなればいいんだと教えた」という。反復させたのが「前に出る」と。そして突っ張りどつり。「それしかやらせなかった」と力を込めた。なぜかというところ「四つに

なった時にへたで勝てない。組んだら勝てない。震えが来るほど勝てないんだ」と思い出しながら苦笑した。そして取った方法が「稽古では弱い相手としか相撲を取らせない。自分の相撲である突っ張る形とか、前に出る相撲ができる相手とだけやらせた。強い者とはやらせなかった」という。とにかく自信をつけさせることに集約させたのだ

### 腰高四つ相撲は不利

高1中退。1歳82で角界入りした柏戸だが、入門後

も背丈は伸び、最終的には1歳88になったが、長身で手足が長い体形に合った相撲が突っ張りだった。

腰高だけに組むと途端に不利になるが、あえて目をつぶった。もし相手有利の

33年名古屋場所所で出番を待つ新進関取時代。突っ張りに懸けたがマス席の手作り感がまた地方場所らしい

組む相撲になったら、今度の相を修業時代から感じとって出る。長い相撲にならないうようにする。相撲の出世への鍛錬は弱い部分を克服しながらの場合が多いのに、まるで好対照の指導法である。

柏戸本人は「師匠は相撲に関して『前に出る』としか言わない。細かいことは言わないんだ」と記者ら周囲に漏らしていたから、本当にシンプルな指導法だった。

### 角界の駿馬の誕生

これを天才教育と呼ぶ人もいた。はまったのは事実だ。「お前はオレの言う通りにやれ。やらなかったらお前は不幸だし、俺も不幸だ。双方が不運だ。でも、

やってみて、できあがったらお前も幸せでオレも幸せだ」。「別に表立って喜んでもらわなかったっていい。心で喜んでもらったそれだけでいい」と指導してきたという。

### 10代目伊勢ノ海

（富樫 嘉美）

敬称略  
そんな中でも「この力士のような取り口で行けば、番付が上げられる」と手本にしていた横綱がいた。

### ◆伊勢ノ海 秀剛(いせのうみ・ひでたけ) 大正7

(1918)年5月3日、岩手県出身。久慈農林学校を卒業し、12年入門。藤ノ川↓柏戸を名乗った。1歳85、90歳の長身、軽量で美男力士としてもならした。途中伊勢ノ海部屋を再興した9代目親方の部屋に移籍し、引退後10代目を継承した。昭和57年、64歳で亡くなった。

毎週火曜日付に掲載